

# 臨床薬学 1

責任者・コーディネーター	地域医療薬学分野 松浦 誠 特任教授 臨床薬剤学分野 工藤 賢三 教授		
担当講座・学科(分野)	地域医療薬学分野、臨床薬剤学分野		
対象学年	4	区分・時間数	講義 16.5 時間
期 間	前期		
単位数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

臨床薬剤師としての基本的知識・技能・態度を理解し、患者本位の医療を実践できる薬剤師としての素養を身につけるために、処方箋を中心とした対物業務のみならず、医薬品情報管理と応用、服薬指導、薬学的管理と処方提案、リスクマネジメントなど、対人業務全般について理解を深めるとともに業務の目的と薬剤師の役割を理解する。臨床薬学 1 は、実務実習の事前学修科目である。

・教育成果（アウトカム）

チーム医療や地域医療を実践する薬剤師として必要な基本的な知識、技能、態度について説明できる。

薬剤師が行う対人業務（医薬品情報管理、服薬指導、薬学的管理と処方提案及び、リスクマネジメント）について理解を深めることで、臨床における薬剤師業務の目的と意義について説明できる。  
(ディプロマポリシー：1, 2, 4, 5, 6, 8, 9)

・到達目標（SBO）

1. 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(888)
2. 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(889)
3. 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(890)
4. 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。(895)
5. 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。(896)
6. 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列举し、その内容と関連を概説できる。(897)
7. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列举し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。(898)
8. 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。(899)
9. 調剤業務に関わる事項（処方箋、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。(910)
10. 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列举できる。(914)
11. 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。(915)
12. 処方箋の様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。(916)
13. 処方箋の監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。(917)
14. 処方箋を監査し、不適切な処方箋について、その理由が説明できる。(918)
15. 処方箋等に基づき疑義照会ができる。(919)

16. 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（925）
17. 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。（926）
18. 処方箋に従って、計数・計量調剤ができる。（927）
19. 後発医薬品選択の手順を説明できる。（928）
20. 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。（929）
21. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（930）
22. 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（931）
23. 処方箋に基づき調剤された薬剤の監査ができる。（932）
24. 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。（944）
25. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。（945）
26. 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（946）
27. 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（947）
28. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。（948）
29. 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（949）
30. 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。（950）
31. 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（951）
32. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。（959）
33. 医薬品管理の流れを概説できる。（960）
34. 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。（961）
35. 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。（962）
36. 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。（963）
37. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。（964）
38. 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。（965）
39. 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。（966）
40. 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。（972）
41. 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。（973）
42. 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（974）
43. 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。（975）
44. 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（976）
45. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。（977）
46. 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。（978）
47. 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。（986）
48. 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（987）
49. 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。（988）
50. 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（989）
51. 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（993）
52. 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。（999）
53. 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。（1000）
54. 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。（1001）
55. 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。（1002）
56. 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。（1003）

57. 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。(1004)
58. 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。(1013)
59. 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(1014)
60. 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(1015)

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/3	水	2	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	<p>「臨床における心構え」 「対物・対人業務の概要」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床において医療の担い手としての必要な心構えについて概説できる。</li> <li>2. 臨床における薬剤師の業務および流れについて概説できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】 事前学修：予定されている授業内容を確認し、予め教科書や参考書等で予習しておく。 事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
4/5	金	2	臨床薬剤学分野	高橋 宏彰 助教	<p>「薬物療法の実践①」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。</li> </ol> <p>「医薬品の供給と管理」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の適正な供給と管理について説明できる。</li> <li>2. 特別な配慮が必要な医薬品の管理について説明できる。</li> <li>3. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理について説明できる。</li> <li>4. 薬局製造販売医薬品について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】 事前学修：3年次の「臨床薬学入門」及び「薬事関係法規・制度1」で学んだ内容を復習する。 事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
4/9	火	3	臨床薬剤学分野	高橋 宏彰 助教	<p>「薬物療法の実践②」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の効果・副作用について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p>

					<p>事前学修：予定されている授業内容を確認し、予め教科書や参考書等で予習しておく。</p> <p>事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
4/11	木	3	臨床薬剤学分野	高橋 宏彰 助教	<p>「薬物療法の実践③」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者・来局者から収集できる情報について説明できる。</li> <li>2. 特別な配慮が必要な患者に対する薬物療法について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学修：予定されている授業内容を確認し、予め教科書や参考書等で予習しておく。</p> <p>事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
4/16	火	3	臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	<p>「医薬品の安全管理（1）」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品リスク管理計画とその応用について説明できる。</li> <li>2. ハイリスク薬の安全管理について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学修：予定されている授業内容を確認し、予め教科書や参考書等で予習しておく。</p> <p>事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
4/18	木	3	臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	<p>「医薬品の安全管理（2）」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染管理の基本から応用について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学修：予定されている授業内容を確認し、予め教科書や参考書等で予習しておく。</p> <p>事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
4/23	火	3	臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	<p>「医薬品の安全管理（3）」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インシデント・アクシデントの事例解析について説明できる。</li> <li>2. 調剤に関するエラーおよびエラー防止対策について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p>

					<p>事前学修：予定されている授業内容を確認し、予め教科書や参考書等で予習しておく。</p> <p>事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
4/25	木	3	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	<p>「代表的な疾患の薬学的管理①」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいた処方設計・処方提案ができる。</li> <li>3. 薬学的記録の記載事項について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学修：予定されている授業内容を確認し、予め教科書や参考書等で予習しておく。</p> <p>事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
5/7	火	3	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	<p>「代表的な疾患の薬学的管理②」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がんの薬学的管理について説明できる。</li> <li>2. 高血圧・心疾患の薬学的管理について説明できる。</li> <li>3. 糖尿病の薬学的管理について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学修：予定されている授業内容を確認し、予め教科書や参考書等で予習しておく。</p> <p>事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
5/9	木	3	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	<p>「代表的な疾患の薬学的管理③」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳血管障害の薬学的管理について説明できる。</li> <li>2. 精神神経疾患の薬学的管理について説明できる。</li> <li>3. 感染症・免疫・アレルギー疾患の薬学的管理について説明できる。</li> </ol> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学修：予定されている授業内容を確認し、予め教科書や参考書等で予習しておく。</p> <p>事後学修：講義で用いた配布資料や演習問題を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>

5/16	木	4	地域医療薬学分野	中原 保裕 非常勤講師	<p>「DX が及ぼす薬剤師への影響」</p> <p>1. DX 化が薬剤師の職能にどのように影響を及ぼすか概説できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学修：予定されている授業内容を確認し、薬局における DX にはどのようなものがあるか予め調べておく。</p> <p>事後学修：講義で用いた配布資料を確認し振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。</p>
------	---	---	----------	-------------	--

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本 [知識・態度] 第3版	上村 直樹、平井 みどり 監修	羊土社	2017
教	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本 [技能] 第3版	上村 直樹、平井 みどり 監修	羊土社	2017
教	スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ. 臨床薬学の基礎 および処方箋に基づく調剤	日本薬学会 他 編	東京化学同人	2017
教	スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ. 薬物療法の実践	日本薬学会 他 編	東京化学同人	2018
参	治療薬マニュアル 2024	北原 光夫、上野 文昭、越前 宏俊 編集	医学書院	2024
参	第14改訂調剤指針増補版	日本薬剤師会 編	薬事日報社	2022
推	処方がわかる医療薬理学 2024-2025	中原 保裕	学研プラス	2024

・成績評価方法

定期テスト（90％）小テスト（10％）から総合的に判定する。
--------------------------------

・特記事項・その他

＜事前学修・事後学修のポイント＞

- ①事前学修については事前に配布される講義ポートフォリオの課題について取り組むとともに、予定されている到達目標の内容に関して予め教科書や参考書等を読んでまとめる。別途指示がある場合はこの限りではない。
- ②事後学修は講義ポートフォリオの振り返りを中心に予習内容、授業内容の要点・課題について整理し授業内容について理解できるようにすること。これらの学修には事前学修1時間、事後学修に1時間を要する。更に定期試験前には10時間程度（1講義あたり1時間程度に相当）の総復習時間を確保する必要がある。
- ③講義は教科書および参考書の内容についてスライドを用いて行う。講義で使用するハンドアウトは当該講義の1週間前を目処に Moodle にて PDF 形式のファイルを配布する。印刷媒体については講義開始時に配布を行う。
- ④出席は講義開始15分以内および講義終了前15分以内に目視で行う。
- ⑤講義担当者の最終授業終了時に講義内容に関する講義内容確認小テストを実施する。実施方法は、スマートフォン等でQRコードを読み取り Google Forms に開設したフォームに必要事項を回答する。このフォームには自由記載欄があり、教員への質問や要望を伝えることができるようになっており、適宜フィードバックする。インターネット接続およびQRコード読取可能なスマートフォンあるいはその類いを準備すること。小テストの結果および解説については Moodle 等の ICT を活用してフィードバックする。
- ⑥定期試験については定期試験終了後に Moodle 等の ICT を活用してフィードバックする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	Mac Book Pro (Apple) Mac Book Air (Apple)	1	講義資料の映写、プレゼンテーション